

稲作

弁当肥忘れずに健苗を適期田植え
異常還元発生に注意しながら生育量確保を。

今月の栽培技術留意点



①弁当追肥実施で素早い活着

苗が栄養不足状態で田植えをすると活着（発根）に時間がかかってしまい初期生育に影響します。田植えの1週間前に弁当肥として追肥を行ってください。今年は異常還元が早期に発生すると予想されており、異常還元に負けずに素早く活着させるためにも栄養をたくさん持たせて田植えに向かいましょう。

育苗期追肥の目安(箱当たり窒素g)

葉齢	稚苗	中苗
1.5葉期	1g	—
2.0葉期	—	1g
3.0葉期	—	1g

育苗追肥資材例(箱当たり)

資材名	液肥2号	サイコー11号
現物量	10ml	8g
窒素量	1.0g	1.04g
水量	1,000ml	—

※「サイコー11号」は散布後にかん水を行います。

土中の酸欠で異常還元発生

葉先の黄化

赤色斑点

飽水管理、水の入替え
夜間落水

土中への酸素供給
有害ガス放出



生育停滞なら
窒素 1kg/10a程度
(例:硫安5kg/10a)

今年も異常還元(ワキ)が早期から発生すると予想されています。異常還元は、今後の気温上昇とともに土中の未熟有機物の分解が始まっていくことで、土中が酸欠となりガスが発生し、根痛みによって生育に影響を及ぼします。耕起時の土壌水分が多く、土を練ってしまった場合、土中が酸欠になり特に発生しやすくなります。ポイントはその土中の酸素です。土を酸化的状態にすることで抑えられるので飽水管理等を実践してみましょう。



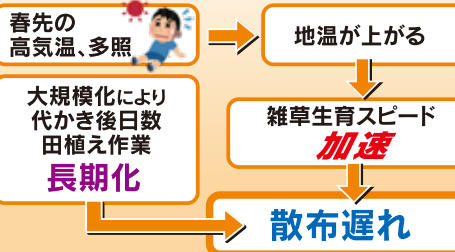
②異常還元(ワキ)に警戒を



③雑草対策

昨年残草したほ場を中心として、雑草発生量は多くなります。特に気温が高いと雑草の生育は早まり、除草剤の散布遅れとなる危険性があります。代かきと田植えの間をできる限り短くし、早期に除草剤を散布してください。田面に雑草が見えてからの散布ではタイミングを逃してしまいます。初期剤の残効があるうちに一発剤を散布し、除草効果期間を重ねて途切れさせないようにすることがポイントです。

温暖化・規模拡大で散布遅れが多い



除草剤を効かすポイント

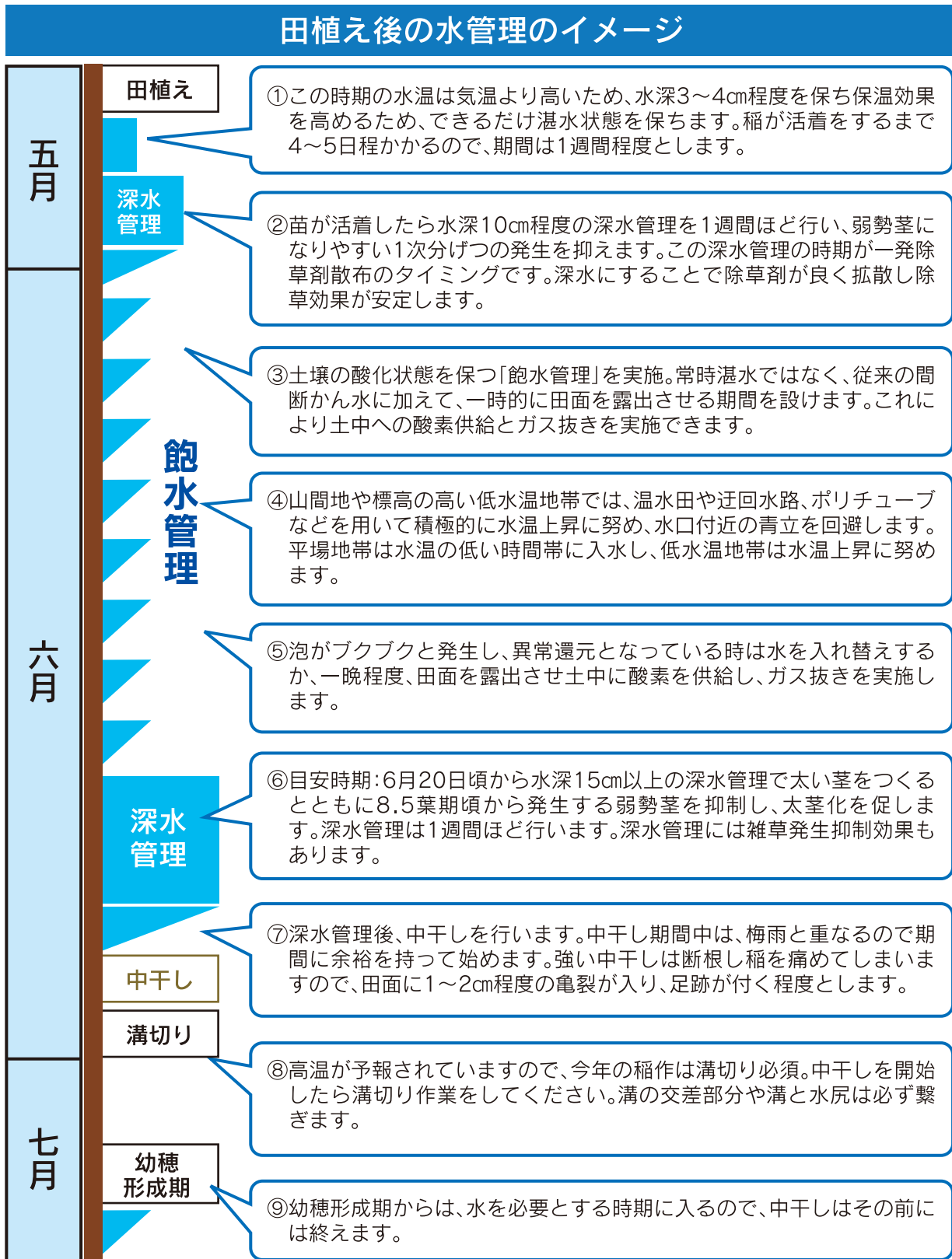
早めの散布
水深確保
止め水期間
田面均平
漏水防止



初期生育確保に向けてスタートダッシュ

今年も、異常還元(ワキ)の発生が予想されますので、水管理で発生を抑制しましょう。土を酸化的状態に保つため、平時から常時湛水ではなく「飽水管理」や間断かん水とします。田面を一時的に露出させるだけでも効果はありますので、水の入れ替え等、ひと手間をお願いします。異常還元の影響を受け、初期生育が確保できない場合は、その後の穂数に影響します。穂の絶対数が少なければ、いくら籾数を多くしても高収量は望めません。分げつ開始から穂数がほぼ決まる7月中旬までにどれだけ必要な窒素を確保できるかがポイントです。異常還元を抑えながら、初期生育を旺盛にする水管理を心がけてください。

田植え後の水管理のイメージ



除草剤を効果的に効かせるポイント

暖かい日が続くと、雑草の生育進度が早くなり、除草剤の散布遅れが心配されます。いくら高価な除草剤でも使用時期が遅れたり、田面均平が悪かったり、部分的に水がかからない（露出している）場合、除草剤の効果は十分に発揮されません。ちよつとした点をおさえて除草剤が効く環境づくりをしましょう。

少し早めの散布を

ラベルに「3葉期まで」と記載されているものでも、0.5～1.0葉程度、5日程早めのタイミングで散布することで、除草剤の効果が安定し、雑草密度を大幅に減少させることができます。

除草剤散布を作業計画に組み込む

除草剤効果を一番発揮させるポイントは「タイミング」です。雑草の動きが早い場合、散布遅れになりやすいので、代かき日、田植え日、初期剤散布日、一発剤散布日をしっかりと検討し計画的な作業をお願いします。また、田植えが長期にわたる場合、途中で除草剤散布日を設けるなどし、散布遅れを防ぎましょう。

漏水箇所の点検保守

除草剤散布後、葉の層（処理層）が田面に出来るまでおよそ4日かかります。漏水箇所があると処理層の形成がうまくできず効果が発揮されません。除草剤散布時は漏水箇所が無いが、水尻は止めてあるか確認をしてください。

水深確保で拡散上手

除草剤成分が拡散していくためには、1キ口粒剤で水深5cm以上の確保が必要です。フロアブル、ジャンボ、豆つぶ剤は7cm以上の水深で拡散が安定します。苗が一時に潜っても、拡散させるためにたつぷりと水を張り、田面が水面から露出しないようにしてください。

表層剥離（カナ）対策

今年も異常還元（ワキ）に注意が必要です。が、合わせて表層剥離（カナ）の発生にも注意が必要です。カナは除草剤の処理層を壊してしまつたため、除草剤の散布タイミングに注意をしてください。カナが落ち着く降雨後や散布前に水の入れ替え等をしてから散布します。

葉いもち防除は予防が鉄則

近年、箱処理剤の普及によっていもち病の発生は少なくなっていますが、いもち病は一度発生すると広範囲に感染が広がり、食い止めるのが難しい病害です。油断せずに発生しやすいほ場を中心に早期発見早期防除に努めましょう。

余り苗は速やかに処分を

補植用余り苗は、育苗期防除や箱処理剤を処理していたとしても、ほ場にあるだけでいもち病の伝染源となります。補植作業が終わったら、ただちに土中に埋没するなど確実に処分してください。

初動が大切

いもち病を見つけたら速やかに予防剤と治療剤の混合剤の茎葉散布を行います。併せて、指導機関やJAへご相談ください。

葉いもち予防のための箱処理剤や側条施用剤を使用していない場合は、必ずオリゼメート粒剤を散布してください。



箱処理剤や側条施用剤を使用していない場合

薬剤名	オリゼメート粒剤
散布時期	6月15日頃(6/12～6/18)
散布量	2～3kg/10a

緊急対策時(例)

薬剤名	ブラシン(粉、フロアブル)
散布時期	発生確認時
散布量	粉 剤 D L:3～4kg/10a フロアブル:1,000倍 60～150g/10a

ほ場内の密に注意を

田植え時に苗が重なって密植になっている箇所や、肥料が重なり葉色が濃密になっている箇所など、密な場所を中心に、いもち病無防除ほ場の隣接ほ場も合わせて、定期的に病斑が発生していないか様子を確認してください。

どんな品種もいもち病防除を

WCSや飼料用米、業務用米などのほ場でも、必ずいもち病防除を行ってください。

斑点米カメムシ類対策は草刈りから

昨年は斑点米カメムシ類が多い年でしたので、越冬する個体も多いと予想されます。本田内や農道畦畔の雑草が少ないと斑点米カメムシ類も寄つてきにくくなります。体調に留意しながら、草刈り作業を実施しましょう。



アカスジカシロガメの生態
・ノピエやホタルイの穂に産卵
・イネにはほとんど産卵しない
↓
・ノピエ・ホタルイが多い場所に多く生息

本田除草、草刈りで生息場所を無くす→密度が減る
→斑点米被害が少なくなる

農薬の適正使用と適正処分をお願いします

- 誤使用が無いように使用前に必ずラベルを確認しましょう。
- 農薬飛散（ドリフト）が無いように天気や散布ほ場周辺作物の確認をしましょう。
- 農薬使用時は作業に適した保護具を着用しましょう。
- 農薬は使い切りを基本とします。
- 散布器具を洗浄し、洗浄液が水系に流出しないようにしましょう。

薬剤名	ノピエ	ホタルイ	オモダカ	コナギ	散布方法	成分数
トドメMF	5～7葉期まで (剤型による)	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布 (剤型による)	1
クリンチャー	4～6葉期 (剤型による)	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布 (剤型による)	1
ヒエクリーン	4葉期まで	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布	1
バサグラン	効果なし	増殖中期まで	発生揃期まで	○	落水または極浅く湛水	1
ヒエクリーン バサグラン	4葉期まで	4葉期まで	矢尻葉抽出期まで	○	極浅く湛水	2
クリンチャーバス	5葉期まで	増殖中期まで	発生盛期まで	○	落水または極浅く湛水	2
レプラス	4葉期まで	花茎10cmまで	矢尻葉3葉期まで	6葉期まで	湛水散布	4
ツイゲキ	4葉期まで	草丈20cmまで	矢尻葉4葉期まで	6葉期まで	湛水散布	3
バイスコープ	効果なし	草丈15cmまで	矢尻葉5葉期まで	3葉期まで	湛水散布	2

※剤型によって使用時期、散布方法が異なる場合があるので、必ずラベルを確認してください。